

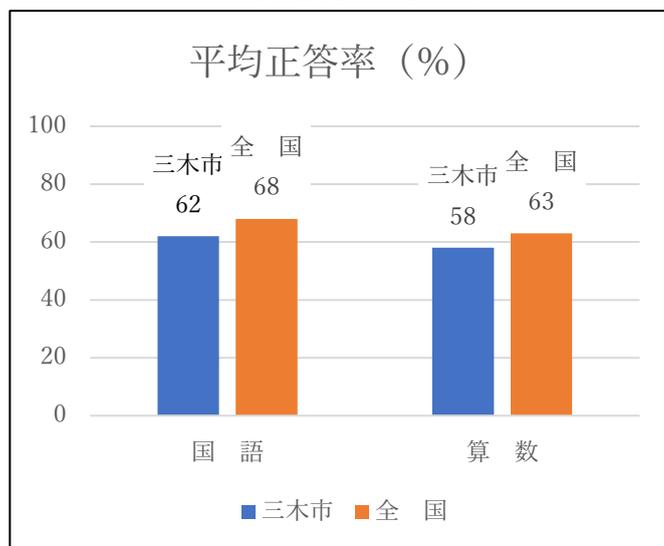
令和6年度 三木市における 全国学力・学習状況調査の結果

三木市教育委員会



令和6年4月、全国学力・学習状況調査が行われました。この調査は、児童生徒の学力・学習状況等を分析し、一人一人の子どもの学びと育ちを把握し、三木市の教育の改善を図ることを目的としています。掲載している調査の内容は、実施教科が特定の教科のみであることや学習指導要領全体を網羅するものでないことから、学力や学習状況の一部ではありますが、この結果を授業改善や家庭と学校との連携のあり方等について考えるきっかけとして活用し、三木市の教育がめざす「主体性・協働性・創造力」の育成を図っていきたいと考えています。

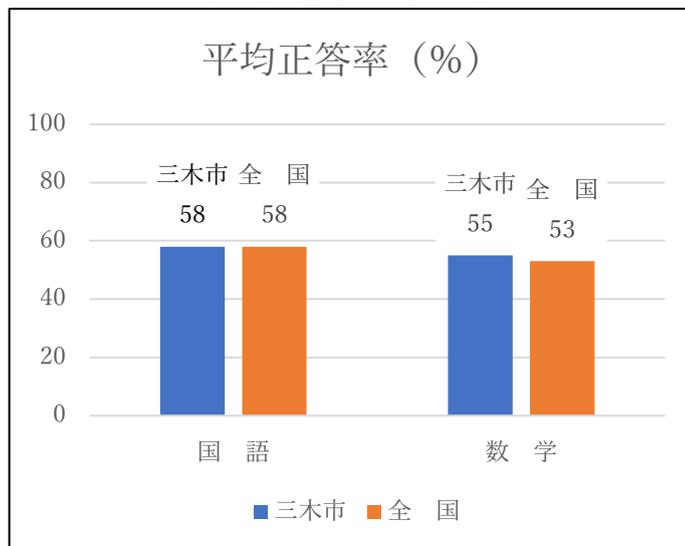
小学校の結果



国語は、全国平均よりも6ポイント低い結果でした。目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題や文の中における主語と述語との関係を捉える問題において正答率が全国平均より大きく下回りました。

算数は、全国平均より5ポイント低く、道のりと時間の関係について考察する問題や求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題において正答率が大きく下回りました。

中学校の結果



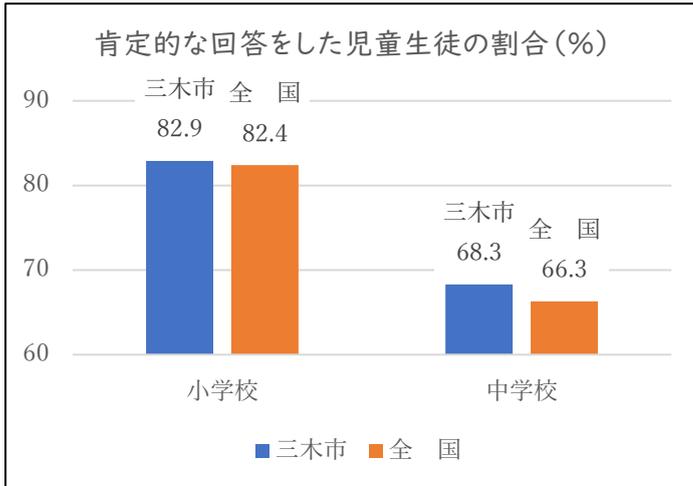
国語は、全国平均と同程度でした。必要に応じて質問しながら話の内容を捉える問題や目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題で正答率が全国よりやや上回っていました。

数学は、全国平均よりも2ポイント高く、全国水準を上回る結果となりました。複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較する問題で、全国平均正答率より大きく上回りました。

質問紙調査の結果から

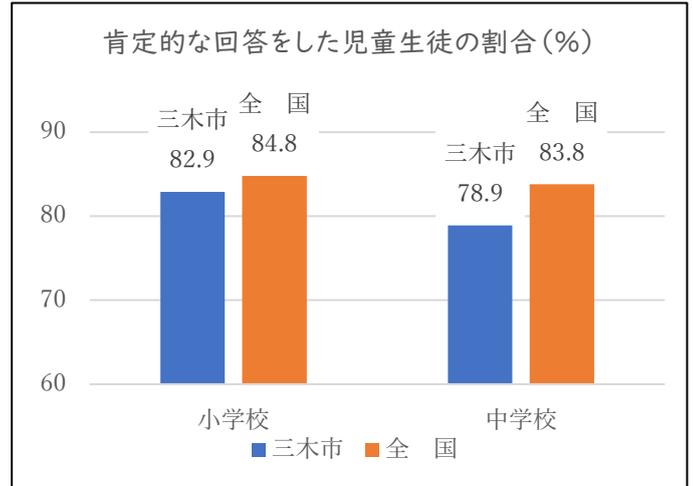
三木市では、全ての子どもが今を幸せに感じる学校づくりをめざしています。以下は、質問紙調査から、子どもたちの心の豊かさにつながる項目を挙げています。また、生活リズムや健康に大きく関係するゲーム時間の結果についてもお伝えします。

○将来の夢や目標を持っていますか



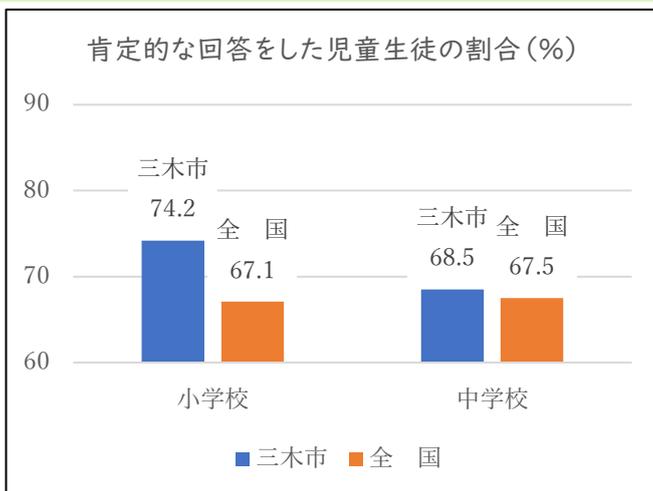
小学校では、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒について、全国平均よりも若干上回る結果を示していますが、大きな差はありません。中学校では、三木市が全国平均よりもやや高い割合を示しており、将来の夢や希望に対する意識が全国的に比べ、若干高いことがわかります。小学校から中学校にかけては、三木市、全国ともに減少傾向となっています。

○学校に行くのは楽しいと思いますか



小学校では、肯定的な回答をした児童生徒について、全国平均よりも若干下回る結果が見られました。中学校においても、三木市が全国平均よりも下回る傾向にあります。わかりやすい授業づくりを進めるとともに、自分の考えが学校生活の改善に繋がるような取組を進め、自己肯定感や自己有用感を育成します。また、子どもたちの発達段階に応じた「楽しい学校」を子どもたちと共に考え、保護者、地域の方と魅力ある学校づくりについて共有します。

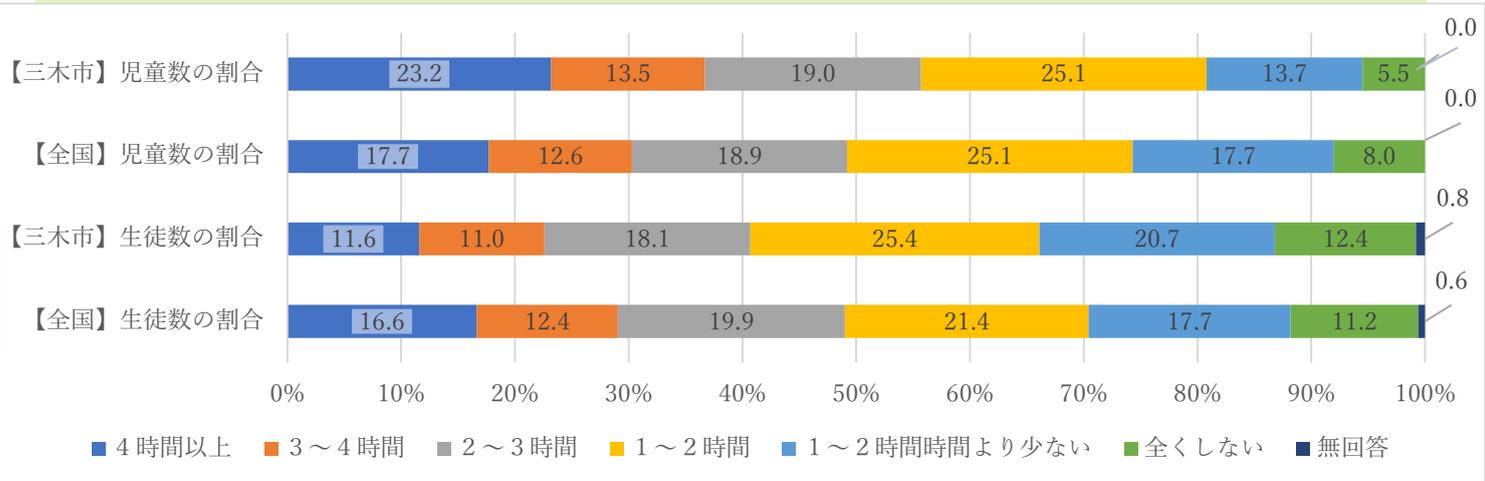
○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



小学校では、三木市が全国よりも大きく上回っており、中学校においても若干高い結果が見られました。子どもたちが困ったときや不安を抱えたときにすぐに相談できる相手がいることは、安心感につながっていきます。子どもたちの学校生活がより充実し、安心して学ぶことができるよう、相談しやすい環境づくりと信頼関係を築くことに努めています。

○普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯
式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。

小学校
中学校



1日当たりのゲーム時間の割合は上記のとおりです。ゲームの時間が増えるほど、国語及び算数・数学の平均正答率が低くなっていく傾向があります。学習に対する集中力の低下や睡眠不足による生活リズムの乱れ、体力の低下などさまざまな要因が考えられます。

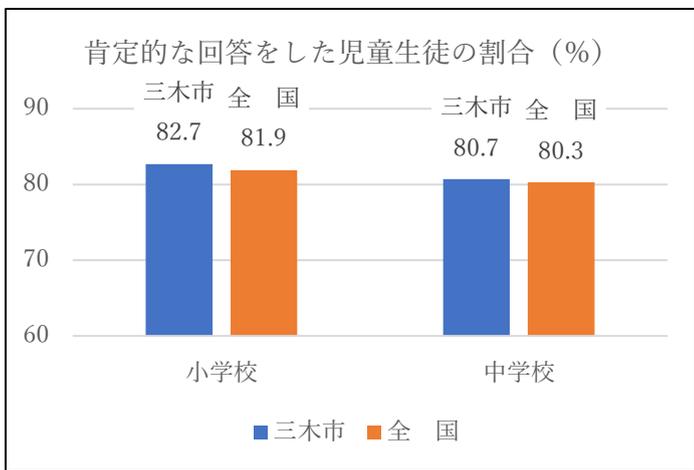
三木市がめざす子どもたちにつけたい3つの力

- 主体性** …自ら考えて行動する力
- 協働性** …協力し合って成遂げる力
- 創造力** …新たな価値を創り出す力

三木市では、「覚える」から「学ぶ」への学びの転換を行い、「主体性・協働性・創造力」の3つの力の育成をめざしています。
子どもたちが目的意識を持って話し合いなどを重ねる中で、学びを深め、自己の課題を解決していく学びの過程を大切にしています。以下は、質問紙調査において、「主体性・協働性・創造力」に関する項目を挙げています。

主体性に関わる質問項目

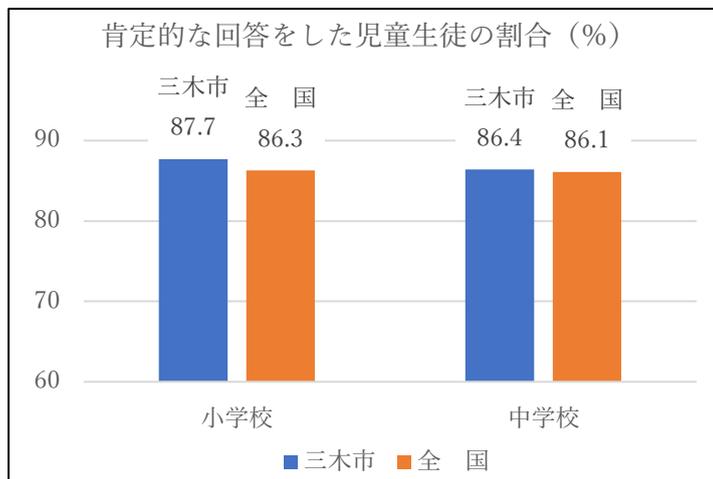
○5年生(中学2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、
自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



小学校や中学校において全国より若干高い結果が見られました。小学校から中学校にかけて、全国平均では1.6ポイント減少しています。三木市においても2.0ポイントの減少が見られ、全国的に中学校での課題解決に向けた主体性が低下する傾向があります。
課題解決に向けて、見通しを明確に持って活動するなど、主体的な学びの推進に取り組んでいきます。

協働性に関わる質問項目

○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、
新たな考えに気付いたりすることができていますか。

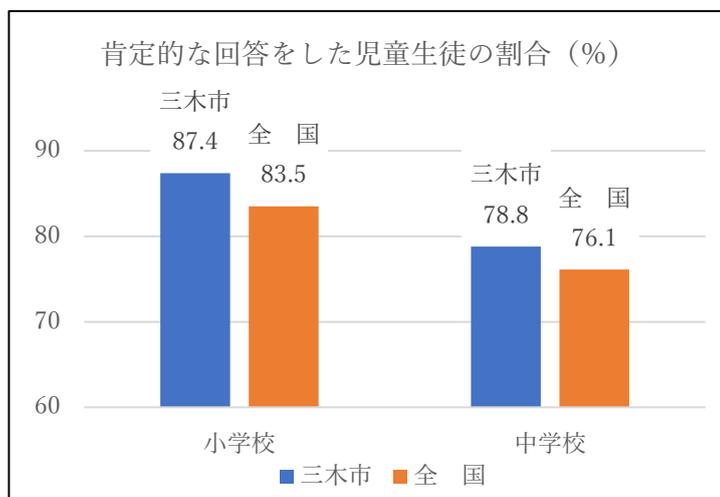


小学校と中学校の両方で比較的高い値を示しており、学級内での話し合い活動が効果的である可能性があります。全国平均と比較すると、中学校はほぼ同等の水準であり、小学校は、全国を 1.4 ポイント上回っています。

また、肯定的な回答をした児童生徒は、教科の正答率が高い傾向にあります。新たな発見や深い学びにつなげていくために話し合い活動が重要であると考えています。

創造性に関わる質問項目

○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



小学校では全国平均をやや上回る結果となっています。中学校では、三木市は全国平均よりもわずかに高い結果となっていますが、小学校から中学校にかけては全国平均と同様に意欲が減少する傾向が見られます。子どもたちの日常生活や将来の課題に関連付けるなど、生活に結びつく学習経験を積み重ねていきます。

「自ら学ぶ・共に学びを深める」学習スタイルへ



個別最適な学び

協働的な学び

ICT の活用



自ら課題を発見し、その解決に向けて実践的に取り組みながら学び続ける「主体的な学び手」を育成するため、新しい学校像を求め、学びのカタチを変えていきます。